第三種郵便物認可　（日刊）　新潟日報

新潟・河田さん総務大臣表彰

地域交流貢献に励み

拠点づくりの広がり期待

「うちの実家」の利用者と和やかに話す河田珪子さん＝新潟市東区粟山4

本年度の地域づくり総務大臣表彰の受賞が決まった、新潟市東区にある常設型の地域の茶の間「うちの実家」代表・河田珪子さん（六四）＝同市中央区山二ツ二＝は、活動の先進性や独自性のほか「優しい心を持つ人が増える仕組み」と評価された。河田さんは「個人賞だが、（活動に参加している）みんなでもらったと受け止めている」と喜んでいる。

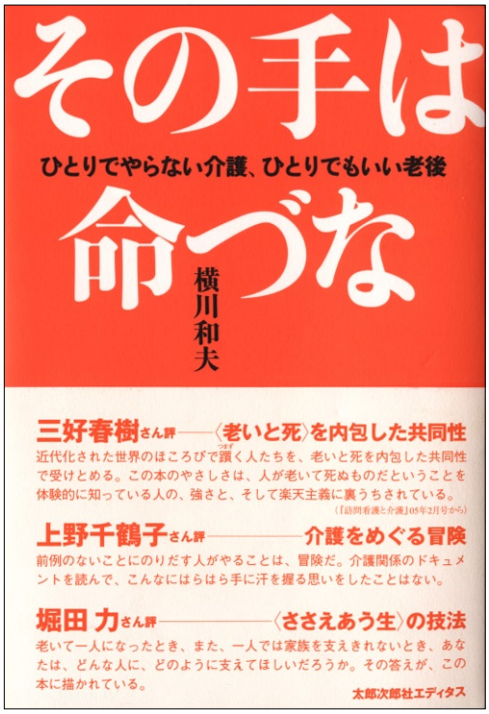
地域に貢献した個人や団体に与えられる同表彰には、全国から個人三人と二十五団体が選ばれた。河田さんは一九九七年、誰もが自由にくつろげる居場所「地域の茶の間」を発案し、同市中央区内の集会場で月一回開いてきた。しかし地域外の来訪者が増え、常時開設を求める声などが上がったことから二〇〇四年四月、宿泊もできる地域の茶の間として「うちの実家」を開いた。

趣旨に賛同し一口一万円を出資する「夢買人（ゆめかいびと）」を募り、住宅街の借家を整備して使用。名前には、実家に帰ったようにくつろげる場所という意味を込めた。

水曜以外の平日と第三日曜が開催日で、障害者を含め高齢者から子どもまでさまざまな人が、しゃべったりお茶を飲みながら手芸をしたりして過ごしている。スタッフはいるが世話をする側、される側という役割をつくらず、集まった人が手助けし合うのも特徴だ。

河田さんは「介護保険などの仕組みだけでなく、自然に手を貸したり気遣ったりし合える日常的なつながりがなければ、人は生きていけないと思ってきた。同じような取り組みが社会全体に広がっていったらいいな」と話している。

表彰式は十三日、東京都内のホテルで開かれる。



河田珪子氏の「まごころヘルプ」の誕生から現在までの軌跡、さらに延長としての「地域の茶の間」「うちの実家」についてのドキュメント『その手は命づな』は、横川和夫氏の感動的な筆で書かれている。高齢に近い人、高齢者の介護をしている人は、必読と思います。